



●ご利用者様、ご家族とらいふ職員をつなぐ架け橋●

らいふ通信(特別号)

令和元年8月号 第1号 制作: (株)らいふ TEL 03-5769-7268



1. 介護という仕事の全てを知ってほしい ～介護現場の「声」～

株式会社らいふに身を転じるきっかけとなったのは、父親の介護そして施設での生活を家族として垣間見たことがきっかけです。脳梗塞・認知症を患い、その施設では長く8年ほどお世話になったのですが、ある時思い切って担当の介護職に「大変でしょう。どうして他人の世話ができるのです?」と聞いてみたことがあります。その方は、にこやかに「お父さんは将来の自分です。自分に置き換えています。人が通る道ですから」と言いました。感心させられ父親の顔をマジマジと見ると、確かに自分の老いた姿が投影できました。弊社の理念の一つでもある「高齢介護弱者の救済」で触れている「高齢介護弱者」とは、高齢者の方ご自身のことではなく、高齢者の方を介護する側のご家族、それも「どうすれば良いか分からない、困った」と所謂介護疲れに発展する可能性がある、もしくはその状況に陥ってしまっているご家族のお手伝いをするを指しています。

大切なご家族を自宅で介護したいという気持ちは当然ですが、そういった感情の狭間の中、やむなく施設への入居を選択されるわけです。現場の職員には、まずそのご本人・ご家族の立場になることを教育しています。「目の前にいるご入居者が自分の両親・祖父母だったら」と感じることで、毎日のルーティンワークになりがちな介護も、敬いの精神を胸に抱いたうえで介護業務に臨むことができるのだと確信しています。

介護サービスは、ホテルと同じサービス業でもあります。人生の大先輩として、優しさや敬いの精神だけではなく、入居者の皆様を「お客様」として接し、その秘められたニーズが何かを考え続け、サービスを「させていただく」という姿勢を持つことが、今後益々必要になってくると考えています。

今般、社内で「発信強化プロジェクトチーム」を立ち上げ、定期的なミーティングを行っています。甚だ僭越ながら、介護という仕事が、社会・地域で理解され、信頼関係を築き、最終的にファンになっていただくために、まず「知ってもらう努力」が必要であり、それを実行することが必要だと考えました。つまり、介護の大切さ、重要さ、大変さを様々なコンテンツ・道具を用意・活用し、社会・地域に対し発信を継続的に行うことでもあります。

その成果物第一弾として、本編を作成致しました。「施設が支える」「地域が支える」「ご家族の心を整える」ためのヒント・工夫として、ご高覧いただけることを願っております。

2019年7月

取締役 事業責任者 小林 司

2. 発信強化プロジェクトチーム発足しました!

■プロジェクト立ち上げ目的

プロジェクト設置のきっかけは、事業責任者コメントのとおり、介護という仕事について「**社会・地域の人々に理解してもらい**」「**信頼関係を築き**」「**最終的にファンになってもらう**」ためのコミュニケーション活動をする事です。

そのためには、まず「**知ってもらう努力**」が必要であり、それを可視化し、実行すること、そして発信し続けることだと思います。

「介護という仕事」を、そして「**らいふ**」を世の中に・地域に積極的に**発信し、介護の大切さ・大変さを伝えつつ、興味を持った・共感した、働いてみようかな、入居を検討してみようかな、応援したくなった、と一人でも思ってもらえるよう腐心していきます。**

「介護という仕事の全てを知ってほしい」このプロジェクトのミッションはこの一点です。本チームメンバーを中心として、弊社の全スタッフから皆様に「介護という仕事」について様々な生の情報・ヒントをお届けして参ります。必ずや、お役に立てるものと確信しています。

プロジェクトメンバー

- (1) 施設長

らいふ指扇	らいふ川越
らいふ清瀬	らいふ三鷹
らいふ経堂	らいふ真鶴
らいふ中板橋	らいふ武蔵新城
らいふたまプラーザ	
らいふグリーンテラス・茅ヶ崎	
- (2) 主任

らいふ指扇	介護主任
らいふ川越	介護主任
らいふ大和	看護主任
らいふ小田原	介護主任
らいふ愛甲石田	介護主任
らいふ高田馬場	介護主任
- (3) 本社スタッフ
入社1年目・2年目 スタッフ

3. 第1回ミーティング開催!

2019年6月7日(金)、当社会議室にて発信強化プロジェクトチームの第1回目のミーティングを開催致しました。ミーティングの内容は下記にて、ご紹介致します。今後の、取り組みをお楽しみに!

第1回ミーティング実施内容

- (1) 発足の目的
- (2) メンバー紹介
- (3) 取り組み内容について
- (4) 意見交換

ミーティングでは、取締役 小林より介護がいかに大変かを発信することによって、ニュースでは報道されない**介護の見えない部分や現場で様々な工夫が日々行われていることを発信していくこと**、胆力を持って継続的に発信を行う大切さというお話がありました。また最後に、「**他社にはないものを作り上げていこう**」というお言葉がありました。



▲発信強化プロジェクト ミーティングの様子

詳しくは(株)らいふ公式ホームページよりご確認頂けます。QRコード、もしくはURLよりご確認ください。



https://www.life-silver.com/life_effort/care_work/

4. 意見交換会・事例発表会を実施しました!



▲意見交換会の様子

【意見交換のテーマ】

- (1) 施設で介護している時、苦勞していること
- (2) 施設で介護している時、気を付けていること
- (3) やりがいを感じる瞬間
- (4) 入居者の介護における留意点
- (5) ご本人・家族そして自分自身のモチベーション・工夫



今後、プロジェクトメンバーの施設長が苦勞していること、気を付けていること、やりがいを感じる瞬間をご紹介していきます。施設長それぞれによって考え方が様々です。ご紹介することによって、**実際に介護現場で働く人の声や介護現場で働くことの難しさ、やりがいを感じていただけます。**お楽しみに。

●らいふHPから詳細をご覧ください。 https://www.life-silver.com/life_effort/care_work/

5. 今後お伝えしていくコンテンツ・具体的な取組み

○苦労談・工夫・やり甲斐

- ▶苦労談・大変さ・やりがい
 - ・施設で介護している時、苦労していること
 - ・施設で介護している時、気を付けていること
 - ・やりがいを感じる瞬間
- ▶介護の留意点
 - ・入居者の介護における留意点
 - ・ご本人や家族そして自分自身のモチベーション、工夫

○理念の追求

- ▶生きる力の介護と生きる力を引き出す介護のエピソード

○職場の人間関係・コミュニケーションの大切さ

- ▶ここにこの人あり
 - ・年下上司・年上部下の関係
 - ・男性職員・女性職員あるある
 - ・パワフルスタッフとの関わり
 - ・ヘルパー座談会
- ▶「らいふ信条」の活用・取組み流れ

○現場教育

- ▶事故再発防止の取組み
- ▶施設の各種会議内容

○介護全般

- ▶一日の仕事の流れ
 - ・夜勤帯の実態
 - ・食事介助、服薬介助の様子
 - ・排泄対応(拘縮・漏便など)の苦労
 - ・経口摂取希望の家族宛てメッセージ
 - ・ご家族の要望に応えられない辛さ
 - ・スピーチロックについて
 - ・立上り・トイレ頻回対応
 - ・入居者からのニア暴力・セクハラ
- ▶「時間のモノサシ」について



他社にはない、介護現場の実際に声を皆様にお届けして参ります。今後も随時更新して参りますので、お楽しみに！
閲覧方法は右記ページにてご紹介致します。

6. 当社ホームページ『発信強化PTの取組み』ページを作成しました



当社のホームページトップ

「介護という仕事を知ってほしい」

～介護現場の「声」～
～らいふの取組みを紹介します～

1. 介護という仕事のすべてを知ってほしい

私が、この業界、そして株式会社らいふに身を投じるきっかけとなったのは、父親の介護を通して施設での生活を家族として垣間見たことがきっかけです。脳梗塞・認知症を患い、その施設では長く8年ほどお世話になったのですが、ある時思い切った担当の介護職に「大変でしょう。どうして他人の世話ができるのですか？」と聞いてみたことがあります。その方は、「いやいやにお父さんは将来の自分です。自分に置き換えています。人が通る道ですから」と言いました。感心させられ父親の顔をマフマンと見ると、確かに自分の老い・姿が投影できました。親子ですら見ているのが当たり前なのですか。

弊社の理念の一つでもある「高齢介護職者の救済」で触れている「高齢介護職者」とは、高齢者の方ご自身のことではなく、高齢者の方を介護する側のご家族、それも「どうすれば良いかわからない、困った」と所謂介護職者に免職する可能性がある、もしくはその状況に陥ってしまっているご家族のお手伝いをするところを指しています。

大切なご家族を自宅で介護したいという気持ちは当然ですが、そういった感情の狭間で、やがて施設への入居を選択されるわけですが、現場の職員には、まずそのご本人、ご家族の立場になることを教育しています。「目の前にいるご入居者は将来の自分自身と感じること、毎日ルーティンワークになりがちな介護も、戦いの精神を胸に抱いたうえで介護業務に臨むことができるのが理想です。

一方、残念ながら、従業員は経験豊富なベテランばかりではなく、介護未経験の人から若者男女まで様々です。適切な教育の手帳を踏まなければ、時折目にする「介護施設で虐待」といった状況が生まれてしまいます。介護サービスは、ホテルと同じサービス業でもあります。人生の大先輩として、根気と敬いの精神だけでは、入居者の容体をお客様として扱い、その秘められたニーズが何かを考え、サービスを提供していただくという姿勢を持つことが、今後益々必要になってくると思っています。

今般、社内で「発信強化プロジェクト」を立ち上げ、定期的なミーティングを行っています。基礎情報から、介護という仕事、社会・地域で理解され、信頼関係を築き、最終的にファンになっていただくために、まず「知ってもらう」努力が必要であり、それを実行することが必要だと考えました。つまり、介護の「声」を、まず「大音量」で発信し、社会・地域に「発信を継続的に」行うことも必要です。その成果第一歩として、この「施設を支える」「地域を支える」「ご家族の心を癒やす」ためのヒント・工夫として、ご高覧いただけることを願っています。

2019年7月
取締役 事業責任者 小林 司

内容②

発信プロジェクトとは

プロジェクトメンバーによる意見交換・事例発表会を実施しました



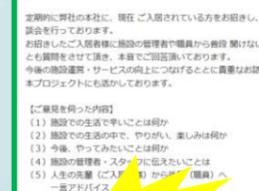
- 【意見交換のテーマ】
- (1) 施設で介護している時、苦労していること
- (2) 施設で介護している時、気を付けていること
- (3) やりがいを感じる瞬間
- (4) 入居者の介護における留意点
- (5) ご本人や家族そして自分自身のモチベーション・工夫

発表した内容は、随時下記コンテンツにて公開していきます。

内容③

意見交換会の様子

ご入居者座談会を定期的に開催しております



- 【ご意見を伺った内容】
- (1) 施設での生活で辛いことは何か
- (2) 施設での生活の中で、やりがい、楽しみは何か
- (3) 今後、やってみたいことは何か
- (4) 施設の管理者・スタッフに伝えたいことは何か
- (5) 人生の先輩(ご入居者様)から後輩(職員)へ一言アドバイス

内容④

入居者座談会の様子

内容①

取締役小林挨拶

3. 同業他社 重大事件に関する所感

(1) メディア取材に関する回答

2019年5月、品川区の有料老人ホームにてご入居者様客室事件が発生しました。ご入居者の安心・安全・安寧を追求するものにとっ、あってはならない事件です。
「単に、個人の苦難だったのか」「施設固有の問題なのか」あるいは、当社を含め同業者も起こし得るものなのか
先日、複数のメディアから取材、コメントを求められました。あらためて事業責任者として以下の通り、回答いたします。
是非ご一読願います。

本件は、介護業界当事者のみならず、広く社会へ行政・一般社会への問題提起が重要だと考えます。

〈記者からの質問①〉

あのような事件は、あくまでスタッフの個人的な性格や資質の問題なのか、それとも日常の業務の延長として誰でも起こしてしまう可能性があるのか？

〈当社コメントの回答①〉

非常に痛ましい、そして他人事ではない事件だと感じています。スタッフの個人的な性格や資質が原因の一つの要因なのだと思いますが、結果まで至るケースは個人の資質に起因する。自分の感情を律する力が弱く、周囲の目を気にせず、自分の強弱には個人差がある、律する力が弱ければ、今回の事件のように道を踏み外してしまう、たぶん、

内容⑤

メディア関連

詳しくは(株)らいふ公式ホームページよりご確認頂けます。QRコード、もしくはURLよりご確認ください



https://www.life-silver.com/life_effort/care_work/

第一弾

◆ご入居者座談会ご紹介◆

定期的に弊社の本社に、現在 ご入居されている方をお招きし、座談会を行っております。お招きしたご入居者様に施設の管理者や職員から普段聞けないことも質問をさせて頂き、本音でご回答頂いております。

今後の施設運営・サービスの向上につなげるとともに貴重なお話を本プロジェクトにも活かしております。

【ご意見を伺った内容】

- (1) 施設での生活で辛いことは何か
- (2) 施設での生活の中で、やりがい、楽しみは何か
- (3) 今後、やってみたいことは何か
- (4) 施設の管理者・スタッフに伝えたいことは何か
- (5) 人生の先輩(ご入居者様)から後輩(職員)へ一言アドバイス



ご入居者座談会の様子

